

第18号 20周年記念号

会報



住みよい街造りを応援します
全国パラボラ工法協会



はじめに

会報 18 号では技能コンテストと銘打って施工会員様の各種工夫や発明、応用、改造等の自信作を発表いただきました。同じ工法を施工する会員様にとっても、興味を持ってご覧いただけるページになっていると思います。どんな事でも、施工現場に大きな変革を起こす工夫作品を是非ご覧いただきたいと思います。実はもっと多くの作品が出品されると思ったのですが 30 作品をいただきました。

不便な点を改良する事、実生活に使用されているものを応用すること、危険を回避するために作った作品等々に施工会員皆様のご苦勞があったのだと感じております。次回の作品展にはもっと多くの参加が期待できると思います。

今回の誌上作品展がいずれ大きな技術の開発、高精度の施工につながり、パラボラ工法の発展に寄与すると思われま。

目次

●挨拶 会長	2
●挨拶 副会長	3
●挨拶 北海道支部会長	4
●挨拶 東北支部会長	5
●挨拶 茨城支部会長	6
●挨拶 東京都支部長	7
●挨拶 長島鋳物(株)	8
●挨拶 東亜道路工業(株)	9
●挨拶 住友大阪セメント(株)	10
●挨拶 I,ZEN.,Co.,LTD	11
●挨拶 本部事務局長	12
●挨拶 関東甲信越事務局	13
●書面評決による総会 本部事務局	14
●第一回理事会 本部事務局	15
●第二回理事会 本部事務局	16
●第三回理事会 本部事務局	17
●東京都支部役員会 東京都支部	18
●下水道管更生技術施工展 西日本第二事務局	20
●建設技術審査証明の更新 本部事務局	22
●パッチグループの曲げ試験 本部事務局	23
●鉄蓋診断士講習会・千葉県 関東甲信越事務局	27
●鉄蓋診断士講習会・新潟県 関東甲信越事務局	29
●ハンマレストップアンカ説明会開催 本部事務局	31
●東京都下水道局、パラボラ工法説明会開催 関東甲信越事務局	32
●下水道人孔鉄蓋は路上の芸術 垣下 嘉徳	34
●20周年記念技能コンテスト誌上発表会 本部事務局	38
●会員名簿会員名簿	69
●協賛広告 東亜道路工業(株)	88
●協賛広告 鹿島道路(株)	89
●協賛広告 長島鋳物(株)	90
●協賛広告 長野油機(株)	91
●協賛広告 ブライトン国際特許事務所	92
●協賛広告 (株)ホーシン	93
●協賛広告 サンコーテクノ(株)	94
●協賛広告 高千穂産業(株)	96
●協賛広告 (株)丸善工業	97
●協賛広告 日本ダイヤモンド(株)	98
●協賛広告 ツインドリル工法協会	99
●協賛広告 (株)ナカケン	100
●協賛広告 セーブマシン(株)	101
●協賛広告 (株)メイクワン	102
●パラボラ工法の動画・QRコード 本部事務局	104

(順不同・敬称略)

20周年ありがとうございました



全国パラボラ工法協会
会長 児玉 利治

会員の皆様、今年は協会設立20周年の年になります。20年の長きにわたり協会を支えていただき、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。本当にパラボラ工法に懸けていただき、円形工法として全国へ定着したのも会員の皆様、そして多くの協力者の皆様あってこそなのです。御存じの通り、円形球面カッターの発明から円形球面工法、すなわちパラボラ工法が誕生しました。そこで迷わず賛同していただき、実績が無く、世間から認められていない工法であるにも関わらず、試験施工を繰り返し広げられ施工を進めていただいた会員様がおられたらこそ今日があるわけなのです。パラボラ工法は円形球面切断という理想の切断方法によって採用され、実証させていただきましたが、語りつくせないくらい色々な場面に遭遇し、それらを乗り越えて前進してまいりました。

協会設立後の施工では規定を満たしている資材と確信して施工したのが大きな間違いでした。結果、施工後に予測だにできなかった施工箇所の割れを引き起こし、発注者側への陳謝と再施工に飛び回らなければなりませんでした。この時の教訓として、すべての表示を鵜呑みにせず、自身の足と目で確認しなければならないと感じました。また、パラボラ工法には魔力があると申したことがありますが、どんなに完璧な工法でも一歩ずつ、理論に基づいた積み重ねが実を結ぶのであり、大まかな施工は危険が付きまといまいます。

多くの出来事を乗り越えて、気が付けばあつという間の20年間でした。総会員数も400社を超え、さらに入会希望者は絶えることがありません。今回20周年記念と致しまして技能コンテストを企画いたしました。多くの会員様から寄せられたアイデア、工夫、ノウハウ、作品を、理事会、事務局員ともども審査させていただいておりますが、非常にユニークで面白い案件が満載でございます。工夫された中には他人には教えたくないようなものもあったことでしょう。しかし、このような企画を通じて会員相互の情報交換、意見交換がさらなる施工の技能アップ、そして会員様、協会の発展に大きな影響を果たすもの感じております。

全国パラボラ工法協会の更なる発展、会員様の益々の繁栄を祈念いたしまして20周年の御挨拶とさせていただきます。

全国パラボラ工法協会 設立 20 周年にあたり



全国パラボラ工法協会
株式会社昭和建設
代表取締役
副会長 齋藤 敬

「全国パラボラ工法協会」設立 20 周年を迎え、この間、工法協会発展のためにご尽力された会長をはじめとする協会役員様、各地で工法の採用をいただくため、発注官庁に猛アタックをして頂いた全国各地会員の皆様、工法協会を支えて頂いた関係各位様、皆様の多大なるご苦勞・ご尽力・ご協力があったからこそこの時を迎えることができたと深く感謝いたしますと共に、更なる飛躍を皆様方と達成できたらと考えております。

本当にご苦勞様でした。そして、設立 20 周年・誠におめでとうございます。

そしてこの周年を機に、今後の下水道維持修繕工事の一種であるパラボラ工法の立ち位置を考えていかなければならない時期に入っていくと考えられます。

各地で始まっている発注官庁技術職員の不足、募集しているものの不人気の為採用数は減少する一方だそうです。この為、公共工事の発注が思うようにできなくなる可能性があると考えられます。この状況を回避する方法として、発注官庁では調査・設計・維持管理・施工等を民間に発注する民間包括発注制度による発注がすでに始まっています。発注官庁の考え方は様々ですが、私たちとしては注視する必要があると思います。

工法協会として、今まで以上の品質の確保・精度の確保・安全な施工が上記の制度の中でも必要不可欠な条件となることと思います。

これからも、協会員の皆様と共に良質な施工を目指し他工法に負けることなくマンホール蓋交換・高さ調整は「パラボラでしょう！！」と、どのような状況下であっても御用命頂けるよう心がけてください。パラボラ工法の更なる飛躍は、協会員皆様に一番必要な事と考え活動していく所存です。今後とも宜しくお願い申し上げます。

20 周年にあたり



全国パラボラ工法協会
北海道支部会長
株式会社 鈴木東建
代表取締役 鈴木 寛

全国パラボラ工法協会設立 20 周年おめでとうございます。

早いもので、北海道支部は今年で設立 15 年となります。弊社が全国パラボラ工法協会の正会員となったのが平成 17 年（2005 年）7 月で、北海道に事務局ができる前の入会でした。

その後、道内各地で正会員 6 社が入会され、平成 20 年（2008 年）に長島鋳物株式会社様と株式会社田中工業様のご協力頂き北海道支部を設立する事が出来ました。

工法普及推進は正会員と各種会員の新規入会による組織拡大が必要不可欠の状況の中、早い段階で北海道支部の設立が出来たのも見玉会長はじめ事務局の皆様のお陰と感謝致します。改めて誌面をお借りして御礼申し上げます。

北海道支部の現状につきましては、正会員 6 社・準会員 9 社・コンサル会員 3 社、併せて 18 社の支部となっております。地方の課題である下水道事業の予算増がままならない状況が続いたのと、平成 23 年の東日本大震災や平成 30 年の北海道胆振東部地震の発生により、道内各社が復興支援事業に向き合う事となり、新規入会への取り組みが遅れた結果となりました。

現在、国交省の下水道ストックマネジメント事業により、蓋の取替が地方にも普及し今後、北海道内でも取替工事の増加が大いに期待される所です。

ちなみに、2019 年度の下水道統計によると、道内の公共下水道の総延長は 3 万 2752km に達し、総延長からマンホール基数を概算すると、マンホール間隔が 40 m として 81 万 8,800 基となり、このうちの 21% の 17 万 2,000 基が経年劣化及び安全機能不備の蓋と推定され、早急に蓋取替の事業化に取り組むために、本年度の第一回北海道支部理事会において会員増強と営業活動の強化の方針を明確化した所です。

また今年 8 月には、東京以北では初の下水道展が札幌市の札幌ドームで開催されます。全国パラボラ工法協会ブースは、株式会社田中工業様（北海道事務局）と全国の事務局である長島鋳物株式会社様の共同出展となり、私共、北海道支部会員がブースで来展者の対応にあたります。心地よい真夏の北海道観光を兼ねて、ぜひお立ち寄り頂ければ幸いと存じます。

最後になりますが、全国パラボラ工法協会及び会員各社様の益々のご活躍・ご発展を御祈念いたしまして、設立 20 周年のお祝いのご挨拶とさせていただきます。

全国パラボラ工法協会
設立20周年、
誠におめでとうございます。



全国パラボラ工法協会
東北支部会長
田中建設工業株式会社
代表取締役 田中 進

全国パラボラ工法協会設立20周年、誠におめでとうございます。

当社は平成16年に全国パラボラ工法協会青森支部の会員として参加することになりました。青森県の県南の会員として上十三地区のパラボラ工法の施工を担当してまいりました。円形工法、特許取得の工法としてパラボラは、各市町村で施工をしてまいりました。その後同様な円形工法の施工社も参入し、なかなか受注にこぎつけることが難しくなりましたが、長島鋳物(株)の担当者と協力し、現在まで施工を続けられております。

今後国土強靱化等の施策により、このような工法による工事が多数、各市町村等から発注されることを期待したいと思います。

現在、東北地区の全国パラボラ工法協会の会長として協会の発展のため努力したいと思っております。

会員の皆様のご活躍と全国パラボラ工法協会の益々のご隆盛を祈念し20周年記念のお祝いの言葉と致します。おめでとうございます。

協会設立 20 周年にあたり



全国パラボ工法協会
茨城支部
有限会社見川小林建設
代表取締役 小林純一郎

会員の皆さまにおかれましてはますますご清栄のこととお喜び申し上げますとともに、全国パラボ工法協会が設立 20 周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

さて、数多のマンホール鉄蓋交換工法が存在する中、【円形球面切断工法の発明】は正にエポックメイキングな出来事で、ゲームチェンジャーとしての役割を果たし、誕生から 20 年を経過した今でもマンホール鉄蓋交換を行っている事業体からの注目度は高いものとなっています。これも偏にパラボ工法発展のために尽力されてきた児玉会長 20 年間の軌跡だと思えます。そして大変なご苦勞をされて当協会をこれまで先導をされました児玉会長に改めて感謝申し上げます。

弊社は平成 20 年（2008 年）に茨城県 1 社目の正会員として全国パラボ工法協会に参加させていただきました。令和 5 年（2023 年）までの 15 年間で水戸市・日立市・常陸太田市・東海村・茨城県企業局（上水道）・茨城県流域下水道事務所等々、茨城県全域の事業体で延べ 1600 ヲ所のマンホール鉄蓋交換施工を行うなど、おかげさまをもって茨城県内での鉄蓋交換分野に於いては企業認知度も徐々に向上し、充実した 15 年間となりました。これからの 10 年についても基本に忠実かつ丁寧な施工を社員一同心がけることにより、エンドユーザーの信頼を得て確固たる市場を形成して行きたいと思えます。

茨城支部としましては徐々に増加傾向にあるストックマネジメント時代の鉄蓋交換工事に対応すべく、正会員 8 社、営業会員 5 社、長島鋳物営業担当者 2 名の布陣で「パラボ工法」を更に普及・拡大して参ります。

最後になりますが全国パラボ工法協会と会員皆様の今後益々の発展を祈念いたします。

20周年にあたり



kobayashi kouichi

小林 光一

佐々木総業株式会社
代表取締役社長

全国パラボラ工法協会
東京都支部長

この度は、全国パラボラ工法協会設立20周年を迎えられたことを、たいへんおめでたいことと心よりお喜び申し上げます。

20年の間に築き上げられた多大な業績はひとえに会長並びに役員の皆様、そして会員各社の皆様が、常に研鑽に務められ、英知を結集し、力を尽くしてきた賜物であると確信しております。

私が東京都支部長に就任したのは去年6月です。都市土木の施工環境、人孔上部機械施工の他工法との競争と陣頭指揮を行っております。東京都支部では、設立以来、東京都支部会員のネットワークの形成、人孔上部補修工事である円切り機械施工を擁しての活動、先進事例の意見交換会、都市土木の施工環境に対応する取り組みをなど、時代の要請に応じて多様な施工方法を展開し、東京都支部の活性化に努めて参ります。

東京都支部では20周年を契機に一層の結束を固め、東京都をはじめとする関係機関や各種団体の皆様との連携をさらに高めながら、全国パラボラ工法協会の振興・発展に邁進していく所存です。

また、新型コロナウイルス感染症の影響による景気後退や休業要請等により大きな打撃を受けている事業者の皆様への経営の一助となるよう支援を重ね、この危機的な状況を打破し困難な情勢を乗り越えて東京都支部の発展に引き続き寄与できるよう努力いたします所存です。

末尾にあたり、全国パラボラ工法協会の益々のご発展と、会員の皆様のご健勝と今後一層のご繁栄を祈念しまして、東京都支部20周年における、お祝いの挨拶とさせていただきます。

全国パラボラ工法協会 設立20周年にあたり



長島鋳物株式会社
代表取締役社長
長島 博高

日頃、会員の皆様にはご愛顧を賜り誠にありがとうございます。全国パラボラ工法協会が20周年を迎えられたことを会員の皆様とともにお慶び申し上げます。

10年前の会員数が277社の協会も、おかげさまで現在の会員数は418社となりました。事務局を仰せつかり、他方マンホール鉄蓋をご愛顧頂く弊社も、パラボラ工法に情熱を注ぐ会員の皆様のお力添えで前進することができた10年間でした。

全国に設置されている公共下水道用マンホール鉄蓋は1600万基、そのうち設置後30年以上経過し改築（更新）が必要な蓋が350万基存在します。（2023年推定値）

しかし改築（更新）されているのは10万基／年に過ぎず、大半の蓋が道路上で老朽化が進行しています。

国土交通省から2020年度（令和2年度）以降、デジタル化した『下水道管理台帳システムへのマンホール蓋の施設情報登録』など諸施策が公表され、下水道施設全体のデータベースが充実し、マンホール鉄蓋の計画的改築（更新）も増加が期待されます。

協会は、多様な時間帯・住環境でのマンホール鉄蓋の改築（更新）に対応するパラボラカッター SPC-1200 MZ を開発しました。会員の皆様はご承知のことと存じますが、このカッターは国土交通省の低騒音型建設機械として認定されました（指定番号：6765）。

またパラボラ工法は、公益財団法人日本下水道新技術機構の技術審査証明（第1730号：2018年）を得ておりますが、先日更新手続きを行いました（2028年3月31日迄）。

2023年3月28日に成立した令和5年度国家予算は『安全保障・外交とこども政策』に重点がおかれ、公共事業関係費は前年度比増ゼロという大変厳しい内容です。社会インフラの維持管理という視点では今後不安を抱く国家予算ではありますが、年間10万基のマンホール鉄蓋改築（更新）は継続すると想定しております。

弊社はこれからもパラボラ工法のさらなる普及に注力し、会員の皆様と共に協会設立30周年を明るく迎えられることを切に願っております。何卒よろしくお願い申し上げます。

20周年にあたり



東亜道路工業株式会社
製品事業本部
製品副部長 遠藤 孝司

貴協会がこのたびめでたく創立 20 周年をお迎えになられたこと、まことに喜ばしく、心よりお祝い申し上げます。

私ども東亜道路工業株式会社は、2006 年に貴協会の特別会員に加盟させていただいて以来、17 年にわたり、樹脂系薄層表層材『パッチグー P』をご愛顧いただいております。

20 年の長きにわたり、着実に努力を重ねられ、今日のご隆盛をみられましたことは、ひとえに貴協会の堅実な活動とたゆまぬご精魂によるものと拝察いたします。

これを機に、ますますのご発展ご躍進されますことをご期待申し上げます。

さて弊社パッチグー P の変革を申し上げますと、長年ご要望いただいていた小パック化（5.5 kg × 2 セット）が 2014 年に実現いたしました。開発にはかなりの時間がかかってしまい大変ご迷惑をおかけしました。

弊社としましては、今後もできる限りのご支援、さらなる品質の向上を進めさせていただきたいと存じますので、これからもパッチグー P の変わらぬお引き立てを賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

高耐久、長寿命、が公共インフラに強く求められる今、20 年経った今でも益々パラボラ工法の飛躍が期待されます。

貴協会と会員の皆様のご発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

全国パラボラ工法協会 設立 20 周年にあたり



住友大阪セメント株式会社
建材事業部
東日本グループ
川瀬 彩

全国パラボラ協会設立 20 周年を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。

また、平素よりパラボラ協会の児玉会長をはじめとした会員の皆様、および事務局の皆様には暖かいご理解、ご協力を賜りこの場をお借りして深く御礼を申し上げます。

弊社は、マンホール用の超速硬モルタル『ネオフィット』を供給させて頂いておりますので開発経緯含め、モルタルのお話をさせていただきます。

まず、弊社建材事業部では、経年劣化したコンクリート構造物の維持管理や予防保全に対応した補修・補強材料を取扱いしております。マンホール蓋も経年劣化することから、マンホール鉄蓋取替工事に着目され、ジェットセメント等、超速硬セメント技術に定評のある弊社にお声がけいただいたと伺っております。

20 年前となりますと、まだ弊社製品も少なかったのですが、当初は早く硬化するモルタルというキーワードで『フィルコン S スーパー』をご紹介させていただいたようです。ただし、この製品は打設後 3 時間で強度発現する製品であり、更に早く硬化して欲しいとの要望から新規モルタルの開発が始まりました。自然流下で十分に流し込みが可能な流動性を有していること、材齢 1 時間で 10N/mm²以上の圧縮強度を目標スペックとし、最終的には材齢 1 時間で 20N/mm²以上の強度発現をする製品が出来上がりました。配合は時代に合わせて日々改良しておりますが、現在でも短時間でこれだけの圧縮強度が発現する製品はありません。

製品は販売当初、数百 t / 年でしたが、2009 年には 1000 t を越え、2016 年は 1500 t、ここ数年は新型コロナの影響もあり 1300 t 程度ですが、毎年多くの量をご使用いただいております。インフラ維持管理の観点から非常に重要な工事であることが分かります。また、仮にマンホール一箇所あたりにネオフィットを 10 袋使用したとすると、1 年間に 6,000 個のマンホール鉄蓋取替工事をしたとこととなり、この 20 年で数多くの工事をしたこととなります。これは、パラボラ工法の技術力や信頼性が高いマンホール鉄蓋取替工法であること、そして一重に会員皆さまのお力添えがあり、これだけ施工数量が伸びているのではないかと感じております。マンホール鉄蓋は全国 1,600 万個あり、その中でも更新が必要なものが 350 万個あるため、今後も必要不可欠な工法であると考えております。

最後に、これからもパラボラ工法が発展していく工法であり続けるため、弊社製品も微力ながら貢献していけるよう努力していくとともに、全国パラボラ協会ならびに会員の皆様の益々のご発展を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。